

秋田空港脱炭素化推進計画(概要)



1. 基本的な事項

○空港の特徴

- ・秋田空港は、1973年に旧空港からの移転に際し、秋田県秋田市の丘陵地帯を大規模に造成し、標高93mに整備された。
- ・2022年度の空港利用状況は、着陸回数8,753回、乗降客数95.6万人、航空貨物478トンとなっている。

○空港脱炭素化に向けた方針

- ・ターミナルビル等の空港施設の省エネ化、航空灯火のLED化、空港車両のEV・FCV化、太陽光発電設備などの再エネ導入などに取り組む。
- ・大館能代空港と連携し再エネ電力の活用を目指す。

2. 温室効果ガスの排出量

区分		温室効果ガス排出量[t/年]	
		2013年	現状(2022年)
空港施設		3,233.6	2,023.3
空港車両		573.1	364.5
空港施設・車両計		3,806.6	2,387.8
(参考)	航空機	5,032.6	4,128.7
	空港アクセス	6,200.3	4,562.9

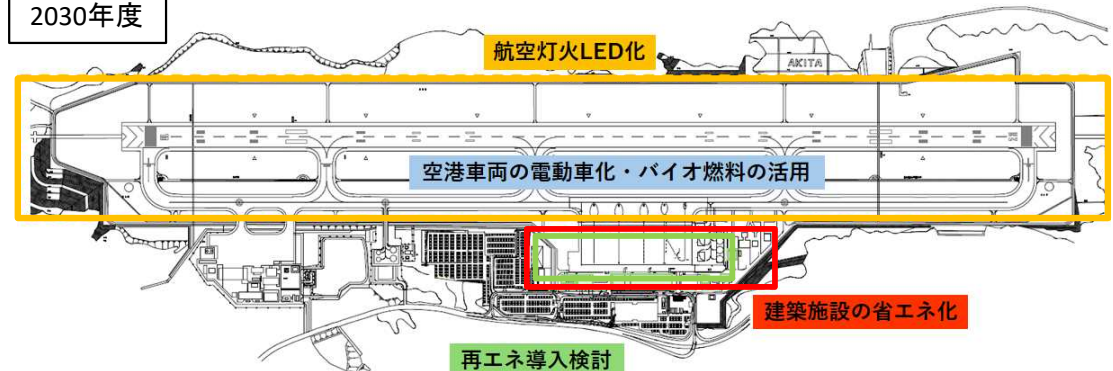
3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比46%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

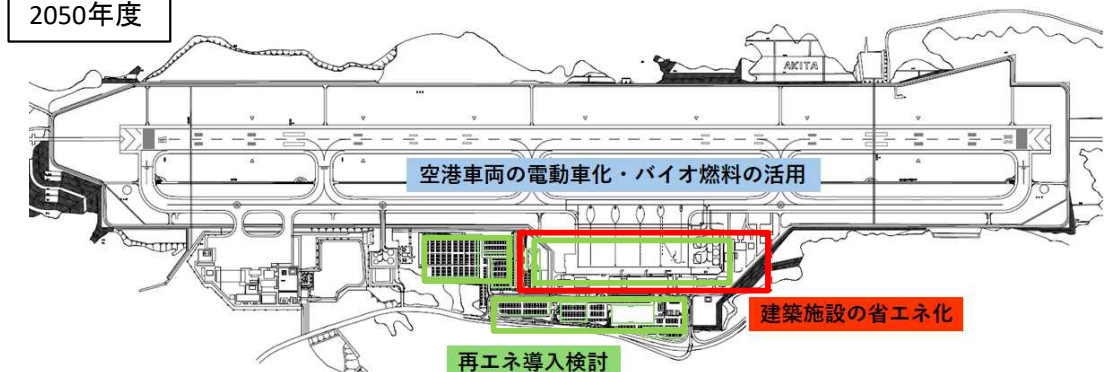
4. 主な取組

- 2030年度: 空港施設の省エネ化、航空灯火のLED化、空港車両のEV・FCV化、太陽光発電の導入等に取り組む。
- 2050年度: 空港車両のEV・FCV化、太陽光発電や蓄電池を検討。

2030年度



2050年度



その他の取組

- 地域連携・レジリエンス: 災害時の蓄電池等の活用
意識醸成・啓発活動等: 空港関係者と連携し取組の推進や成果の確認